

<p>団体名</p>	<p>NPO法人 未来ISSEY</p>	<p>活動タイトル</p>	<p>病気に悩む子どもときょうだい児を支えるサポート向上事業</p>		
<p>望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</p>			<p>■活動風景</p>		
<p>●地域の望ましい社会状況（ビジョン）</p>	<p>当法人のビジョンは「病弱児とその家族が希望をもって生活できる香川県を創る」ことである。診断確定から治療・療養・社会復帰と、どの時期にあっても子どもの心の成長に必要な「年齢の近い人とのコミュニケーション」「学習意欲と学年相応の学習内容」が欠けることのない状況を安定的に作り出すことを目指す。また子ども全体を「病気を抱えることになるかもしれない存在」として捉え、子どもに関わる全ての香川の人々が、彼らの明るく豊かな将来を支える社会をつくることが目標である。</p>		<p>季節イベント「サマーパーティー」（オンライン開催）</p>	 <p>病院に入院中の子どもたちとGBが絵画作り・ゲーム・ビンゴを楽しんだ。子どもとGBが互いに笑顔になるだけでなく、子どもの隣でその様子を見ているご家族も心温まるとおっしゃる。</p>	
<p>●団体の社会的役（ミッション）</p>	<p>当法人の社会的役割は「香川県内の病弱児を孤立させない・学びが途絶えない支援体制を根付かせること」である。法人を構成するスタッフのほとんどは、自身の子どもが病弱児である「ピア」である。「ピアサポーター」として、上記の保護者や医療・教育関係者・行政といった子どもを取り巻く人々の間で、きめ細かな支援ができるのが強みである。困難や苦しみを理解できるが故に、子どもの将来を見据えた前向きなバックアップ体制を構築することができる唯一の存在と考える。</p>				
<p>●団体の活動基盤</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人的資源：GBとして研修を積極的に受け、病弱児と家族・未来ISSEYの願いに寄り添えるサポーター集団を育成する。</li> <li>●物的資源：寄付によって、子どもが楽しめるボードゲーム・カードゲームやイベント時のプレゼント・制作材料などが賄えるネットワークを構築する。</li> <li>●活動資金：法人の裁量・工夫の余地の大きい自主財源（会費・寄付・自主事業）を十分に確保し、継続して病弱児支援に入れるよう寄付者等の新規開拓を行う。</li> <li>●ナレッジ：GB事業の運営・GB育成ノウハウを確立する。</li> </ul>				
<p>■活動報告&lt;400字程度&gt;</p>			<p>■1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</p>		
<p>●病気を抱える子どもときょうだい児を対象に、学生サポーター「グッドブラザー」が、遊び・学習支援を行う「グッドブラザー（GB）事業」。子どもたちの心と学習を温かく支えとともに、GBの更なる意識とスキルの向上を図った。</p> <p>●入院児・療養児・きょうだい児対象に金曜日・土曜日オンラインで定期交流を77回、季節イベントを4回、オンラインで実施。学習支援・会話・ゲーム・制作活動を通してコミュニケーションの場をつくり、子どもたちの「楽しさに浸りきる」経験を支えた。</p> <p>●GBは新規登録研修会・スキルアップにつながる研修会に参加しながら、定期交流・季節イベントをスタッフと協力し企画・開催した。</p> <p>活動後GBが報告アンケートを記入、そこから子どもの満足度とGB自身の満足度を分析して、「楽しんで参加する」ために必要なGBの資質を探った。</p> <p>彼らのフォローアップを次の研修会に準備し、GBが活動の中で子どもを伸ばすことに対して充実感を持てるよう配慮した。</p>			<p>【アウトプット目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●定期交流・学習支援 年間7回実施 子ども参加人数延べ 60人 GB参加人数延べ 139名</li> <li>●季節イベント 年間4回実施 子ども参加人数延べ 37人 GB参加人数 14名</li> <li>●技能評価の取れた2回以上参加のGBのうち、1項目以上で評価upした者 約73%</li> </ul> <p>【アウトカム目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●定期交流に初回参加から最終参加で意欲が高まった子ども34%</li> <li>●季節イベントの参加から定期交流へ移行した子ども 5人</li> <li>●2回以上活動に参加したGBのうち意欲・満足度で評価upした者 約24%</li> <li>●アンケート自由記述から見えた「子どもとの交流のポイント」①GBからの積極的な働きかけ（会話・コミュニケーション技能向上）②ゲームなどのコンテンツ</li> </ul>		
<p>■事業を通じて得られたノウハウ</p>			<p>■望ましい社会状況を達成するための課題</p>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>●交流活動をグレードアップさせるには参加者の意見・感想を聞き取ることが必要である。しかし参加している子どもたちからアンケートをとることは精神的負担が大きいため、従来より参加後に記入をお願いしているGB側のアンケート項目を数値化して記入。数値化した「子どもの表情・発言」や「自分自身の感情」から子どもの満足度の変容が可視化できた。</li> <li>●GBのスキルは、同席したスタッフが数値化して評価した。事業の実施前後でGBのスキルの向上を「技能評価シート」を作成し「挨拶・礼儀・態度」「言葉によるコミュニケーション（学習内容の分かりやすい説明なども含む）」「ノンバーバルコミュニケーション（表情・身振りなど）」「学習指導技術（資料提示の仕方）」「意欲」の4項目で確認。複数回研修を経て向上していく様子が明らかになった。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>●初回参加した子どもの継続参加に向け、企画・内容の工夫とグッドブラザー（GB）の個々の特性を生かした配置の工夫を行う。</li> </ul> <p>イベントや交流に来た子どもたちに直接確認はできないが、2回目以降来なくなる場合がある。その理由を今回の事業から「企画・内容の面白さ」「GBの思いと技量」と見出すことができた。</p> <p>よって、今後は①「ワークショップとゲームなど、短時間でも傾向の違う内容の組み合わせ」で企画を構成し、飽きない企画・内容を工夫すること、②「交流する子どもの年齢層に合わせて、対応するGBの配置を工夫」することについて取り組みたい。</p> <p>小さい子どもとの交流を好むGB、小学生と知的な遊びが得意なGB、中高生の学習支援を得意とするGBというように、交流する子どもとの相性があることも分かった。スタッフはGB個々の「意欲向上」と「スキル向上」を支援するとともに、GBがもつ個性を最大限生かせる出会いの場を設定することに取り組む必要がある。</p>		
<p>■活動成果のアピールポイント（自由記入）</p>			<p>この1年間の活動を通じて</p>	<p>病弱児とそのきょうだい児の気持ちを支える前向きにし、学生ボランティア自身の子どもの支援に対する意欲向上とスキル向上</p>	<p>を達成しました。</p>
<p>■受益者の具体的な変化（自由記入）</p>			<p>同じ子どもたちと家族が何度も定期交流やイベントに参加して、GBや当法人スタッフと継続して関わることを楽しんでいる。またGBは入れ替わりもあるが、研修会に参加したり他のGBとともに活動したりすることによって、直接交流の楽しさ・やりがいを感じ、更に向上したいという思いを膨らませている。</p>		